

【学校評価の結果】

1. 学生による授業評価、臨地実習評価

＜4段階評価＞とてもそう思う4、そう思う3、そう思わない2、全くそう思わない1

1) 講義について（1、2年生の講義において専任教員が評価を得た授業科目の評価の平均点）
中間評価の結果を受け、授業の改善を図り最終評価を得た。

評価項目	中間評価	最終評価
この講義に意欲的に参加した	3.6	3.7
教員の説明は、具体的でわかりやすかった	3.7	3.8
教員は、学生の興味を引き出すような工夫をしていた	3.7	3.8
この講義は興味・関心が深まる内容だった	3.7	3.8
学習目標は達成できた	3.6	3.7

2) 臨地実習について（2年生の領域実習すべての評価の平均点）

評価項目	評価の平均値
課題を持ち、目標が達成できるよう努力した	3.5
事前オリエンテーションの内容は、実習を円滑に行うために役立った	3.7
援助について、教員から適切な助言・指導が得られた	3.9
看護過程の展開について、教員から適切な助言・指導が得られた	3.9
教員は学生が理解しやすい言葉や方法で指導していた	3.9
教員は看護者としてモデルになっていた	3.9
教員と指導者間で指導の方向性がずれないように連携がとれていた	3.8
全体として充実した実習だった	3.8

2. 卒業時まで身に付けておく能力（到達目標）の修得状況

卒業生の就業先の看護部長（4名）から当校の到達目標の状況について調査した。同時に全実習終了後の2年生（7名）に自己の到達状況について調査した。

＜4段階評価＞よくできている まあできている あまりできていない ほとんどできていない

単位：人

卒業時まで身に付けておく能力の修得状況（到達目標）	よくできている	まあできている	あまりできていない	ほとんどできていない
対象の尊厳・権利を守り倫理に基づき責任ある行動をとる	1	2	1	0
	3	4	0	0
科学的根拠に基づいて、対象に応じた安全・安楽な看護を实践する	0	3	0	1
	1	6	0	0
実践した看護を客観的な根拠に基づき振り返り、自己の成長に繋ぐ	0	2	2	0
	2	4	1	0
看護への探究心を持ち、自らの課題解決に向け、主体的に学習し続ける	0	1	3	0
	4	2	1	0
人々の多様な価値観を受け入れ、対象に寄り添い、思いに共感する	0	3	1	0
	2	5	0	0
他領域の職種と連携・協働し、チームで働く一員としての基礎的な能力を持つ	0	3	1	0
	1	6	0	0

上段：病院の看護部長

下段：2年生

3. 2018年4月～2021年10月までの当校卒業生の4病院における在籍状況

過去4か年の就職人数(アンケート対象4病院)	在籍者人数(2021年10月現在)	離職率
16名	13名	18.8%

4. 病院以外の実習施設から当校に関する要望・意見

訪問看護ステーション2施設、保育園4施設 特別養護老人ホーム1施設 地域包括支援センター2施設、居宅介護支援センター3施設の計12施設にアンケート調査を実施した。

1) 実習前に実習生に見につけておいて欲しいこと。ア～キの選択肢から2つを選択してもらった。

ア. その実習に興味・関心を持つ	11	オ. 安全を考慮したふるまい・行動	1
イ. その実習に関する知識	4	カ. 想像力・予測する力	2
ウ. 身だしなみ・態度など礼儀・作法	5	キ. その他	1
エ. コミュニケーションの力	2		

2) 実習生へ期待したいこと

- ・積極的に聞いてほしい
- ・学生発信で療養者や介護者に話しかけ聞いてほしい
- ・積極的に意見や質問をしてほしい
- ・事前学習をしっかりと欲しい
- ・医療と介護の橋渡しを担ってほしい

3) 養成所に期待すること

- ・専門職として長く働いていけるよう働きかけをしてほしい
- ・多くの看護師を育てて欲しい

【学校関係者評価委員会からの意見】

令和3年度の当校の自己評価結果をもとに、学校関係者評価委員会を開催し、以下の意見を得ました。

- (1) 授業アンケートの中間評価を真摯に受け止め自身の教育活動に活かしたことは評価できる。
- (2) 実習では非常にきめ細やかに丁寧な指導をしている。学生が主体的に取り組めるよう継続した関わりが必要である。
- (3) 社会人経験者が多く、看護師への動機づけが様々である。卒後3から4年で退職するケースが多い。看護を考える機会を多く与え、自分の考えや意見を話す機会を作ることが必要である。
- (4) 地域の実習施設からの声を、公的にアンケートとして意見をもらい教育活動に活かそうとする試みは評価できる。

【今後の課題】

- (1) 学生の背景を踏まえ、個々の学生に応じた関わりから看護への動機づけを高められるよう「自分の意見を言う」「他者の意見を聴く」機会をつくる。
- (2) 臨床と連携し、学生の学びが深まるよう実習環境を整えていく。
- (3) 卒業生へアンケート調査を実施し、早期離職を防ぐための支援策を検討する。